

城山一号墳の発掘調査記録写真(二)

——千葉県香取市城山古墳群の基礎資料(1) [その2] ——

犬 木 努

一 はじめに

城山一号墳は、千葉県香取市(旧香取郡小見川町)に所在する全長約七〇mの前方後円墳である。千葉県立小見川高校の移転に伴う造成工事に先立ち、一九六三(昭和三八)年に発掘調査が実施された。後円部の後方(南側)において未盗掘の横穴式石室が確認され、三角縁神獸鏡をはじめとする多数の副葬品が出土したほか、墳丘から多数の形象埴輪・円筒埴輪が原位置で検出されている。

前稿(犬木二〇一六)⁽¹⁾の冒頭にも記したように、筆者は、城山一号墳出土埴輪の再検討作業を継続して行っている。円筒埴輪・形象埴輪研究においては、その配列状況を知ることが非常に大きな意味をもつが、城山一号墳の発掘調査は非常に短期間で行われたことも

あり、埴輪配置の詳細については不明な点も多い。

そこで、筆者は、城山一号墳の発掘調査時の写真の全容を整理する作業を通じて、城山一号墳の円筒埴輪や形象埴輪の配列に関わる基礎情報を掘り起こすことを企図している。

本稿では、前稿で提示した城山一号墳発掘調査に関する全ての記録写真および、その後、新たに確認された記録写真も加えて、その撮影内容について記述することを目的とする。

二 城山一号墳「発掘調査記録写真」の撮影内容

前稿では、現時点で知られている城山一号墳の「発掘調査記録写真」の全てを整理し、番号を付した上で提示している。本節では、前稿で提示した各写真の撮影内容を検討する。

写真1 J11A1

横穴式石室の開口部から北北西に向かって撮影。羨道部右側壁の石積みが見える。白い数字は、石室解体のために各石材に記入された番号である。羨道床面には実測用の水糸が張られている。

写真2 J11A2

横穴式石室の開口部から北北東に向かって撮影。羨道部左側壁の石積みが見える。羨道床面には実測用の水糸が張られている。

写真3 J11A3

横穴式石室の玄門付近から北北東に向かって撮影したものと思われる。玄室左側壁の石積みが見える。奥には作業用の白熱電灯が吊り下げられている。床面には実測用の水糸を留める杭（樹枝？）が見られる。

写真4 J11A4

横穴式石室の玄門付近から北北西に向かって撮影したものと思われる。玄室右側壁の石積みが見える。床面には実測用の水糸を留める杭（樹枝？）が見られる。

写真5 J11A6

城山公園内の風景と思われるが詳細不明。電柱や灌木、緑石など



図1 城山古墳群全体図

が見える。

写真6 J11A7

写真7 J11A8

城山一号墳の遠景写真。向かって左側が後円部、右側が前方部である。城山一三号墳が立地する、現在、天満宮と浅間神社が祀られている付近から西に向かって撮影した可能性が高い。城山一号墳の東側が広範囲にわたって削平されている状況が見える。この部分には千葉県立小見川高校の校舎および校庭が位置する場所に相当する。既に古墳の東側墳裾部にも削平が及び、墳丘の一部が削られている状況も看取できる。向かって左側、後円部の南東側にはブル

ドーザー一台が掘削中である。その右側(南側)には小見川高校の女子学生と思われる十数人が古墳に向かって歩いている。写真6と写真7はほぼ同一の画角であるが、ブルドーザーの位置や女子学生の位置が僅かに異なっている。

写真8 J11A9

城山丘陵上に位置する「城山第一浄水場」の一部が写る。浄水場の南東方向に広がる水田風景を撮影する。なお、「城山第一浄水場」の敷地内には、城山四号墳が位置している。

写真9 J11A10

城山丘陵上からの遠景。左手前に住宅、左奥に水田風景が広がる。詳細不明。

写真10 J11A11

城山丘陵上の遠景。林野風景が広がる。詳細不明。

写真11 J11A12

城山丘陵上からの遠景。手前に「城山第一浄水場」、奥には「忠霊塔」が見える。浄水場付近から北北東に向かって撮影したものとされる。「忠霊塔」の背後には水田が広がり、その奥には利根川が見える。なお、「小見川町史」によれば、「忠霊塔」は、城山一号

墳発掘調査の前年である一九六二(昭和三七)年一〇月一日に竣工している(小見川町史編さん委員会編一九九一)。

写真12 J11A13

トレンチの土層断面。分層されている。詳細不明。

写真13 J11A14

写真14 J11A15

いわゆる「武人埴輪」の出土状況。頭部から頸部付近の拡大写真。報告書における「武装男子埴輪」(丸子ほか一九七八、一二一頁、図版四三)が該当する。現在、同埴輪の顔面は下半部しか遺存しないが、発掘調査時には、両眼や鼻も遺存していたことがわかる。

写真15 J11A16

写真16 J11A17

横穴式石室の「閉塞板石」⁽²⁾の拡大写真。南から北に向かって撮影。緑泥片岩の一枚石を用いる。上半と下半では土の付着状況が異なっており、下半部を覆っていた土を除去したばかりの状況と思われる。

写真17 J11A18

トレンチの土層断面。分層されている。詳細不明。

写真18 J11A19

横穴式石室の入口部・閉塞部の全景。南から北に向かって撮影。「閉塞板石」の手前には、南南東に向かって「排水溝」が伸びる。向かって左側には高校生等の姿が見える。

写真19 J11A20

横穴式石室を閉塞する一枚石（「閉塞板石」）を除去した状況。一枚石の内側に径20〜30cm程度の角礫を乱雑に積み上げている。南から北に向かって撮影。上部には羨道部の天井石、左右には羨道部の側壁の一部が見える。羨道天井石の上部に粘土を厚く被覆している状況が看取できる。

閉塞石の手前には板材（凝灰岩製）が置かれている。

写真20 J11A21

前方部西側の墳丘下段に配置された形象埴輪列。向かって右側が墳丘斜面、左側が周溝部分。北から南に向かって撮影。手前および中央にそれぞれ「下総型」人物埴輪の基台部、奥には「下総型」人物埴輪の基台部1体および「非下総型」人物埴輪の基台部複数が配置されている。墳丘側にはトレンチの壁が垂直に切り立っているが、個体毎に破片をまとめたと思われるビニール袋を壁の上に置く。人物埴輪の基台部にはそれぞれ個体番号を記したと思われる荷札が結び付けられている。画面左端には遺物取り上げ用の木箱が複

数、置かれている。

写真21 J11A22

詳細不明。後円部南西側の円筒埴輪列付近で須恵器や土師器が集中的に配置された「粘土敷」が検出されているが、その「粘土敷」の写真か。折尺で方位を表示する。北から南に向かって撮影されている。

写真22 J11A23

植物の根などの状況から、写真21の「粘土敷」を除去した状況の写真と思われる。折尺で方位を表示する。北から南に向かって撮影されている。

写真23 J11A24

横穴式石室の南側に設置された9トレンチ東壁の土層断面。西から東に向かって撮影されている。9トレンチの南側で「周溝」が検出されているが、写真左端に「周溝」の一部が写る。

写真24 J11A25

横穴式石室の南側に設置された9トレンチ東壁の土層断面。西から東に向かって撮影されている。9トレンチの南側で検出された「周溝」が写る。「周溝」部分の壁面に折尺が立てられている。写真

手前には、「排水溝」の石列が撮影されている。

写真25 J11A 26

横穴式石室の南側に設置された9トレンチ東壁の写真。西から東に向かって撮影されている。右端に「周溝」、中央から左側に「排水溝」が見える。「周溝」部分の壁面に折尺が立てられている。

写真26 J11A 27

横穴式石室の南側に設置された9トレンチ東壁の全体写真。西から東に向かって撮影されている。中央に「周溝」、左側に「排水溝」が見える。「周溝」部分の壁面に折尺が立てられている。奥には複数の女子高校生が写っている。

写真27 J11A 28

写真28 J11A 29

写真29 J11A 30

後円部墳頂円筒埴輪列の検出状況。円筒埴輪に付された荷札には、手前から順に、「ハニワ202」「ハニワ201」「ハニワ198」「ハニワ195」などの文字が見える。別稿(尖木ニ〇一)で考察したように、後円部墳頂部で検出された円筒埴輪の個体番号は報告書(丸子ほか一九七八)に明記されていないが、報告書の記述を仔細に検討していくと、それらの個体番号がNo.193以降である可能性が高いことが判

明している。

写真29も同じ画角で撮影されているが、右側から奥側にかけて墳丘が掘り下げられているのは、前方部東側面の円筒埴輪列を調査するトレンチが見えていることを意味する。

なお、報告書では後円部上段に巡らされている円筒埴輪列を「後円部墳頂円筒埴輪列」として記述するが、本稿では、それらを「後円部墳頂円筒埴輪列」および「隆起斜道右側円筒埴輪列」「隆起斜道左側円筒埴輪列」に区分する⁽³⁾。写真27・29に写っているのは「隆起斜道右側円筒埴輪列」で、南から北に向かって撮影されている。

写真30 J11A 31

写真31 J11A 32

後円部墳頂円筒埴輪列の検出状況。「後円部墳頂円筒埴輪」の北端部を、西から東に向かって撮影している。手前側では「隆起斜道左側円筒埴輪列」、奥側では「隆起斜道右側円筒埴輪列」の一部が向かって左側(北側)に伸びる様子が看取できる。写真31では、手前の「隆起斜道左側円筒埴輪列」がより明瞭に撮影されている。

写真32 J11A 33

後円部墳頂円筒埴輪列の検出状況。手前側に左右に検出されている円筒埴輪列は、「後円部墳頂円筒埴輪列」の北西部、手前中央から奥側に伸びる円筒埴輪列は「隆起斜道左側円筒埴輪列」である。

南から北に向かって撮影されている。左奥には前方部墳頂で作業する人の足が見える。また、右奥下方にはブルドーザーの姿が看取できる。

写真33 J11A 34

後円部墳頂円筒埴輪列の検出状況。手前側に左右に検出されている円筒埴輪列は、「後円部墳頂円筒埴輪列」の北西部、左側から奥に向かって伸びる円筒埴輪列は「隆起斜道左側円筒埴輪列」である。南から北に向かって撮影されている。

写真34 J11A 35

後円部墳頂における円筒埴輪列検出状況（全景）。手前側には「後円部墳頂円筒埴輪列」が左右に伸び、左側からは「隆起斜道左側円筒埴輪列」、右側からは「隆起斜道右側円筒埴輪列」が奥（北）に向かって伸びている。南から北に向かって撮影されている。奥側には、前方部墳頂における発掘調査状況が看取できる（2トレンチなど）。学帽を被った男子高校生が三〇人近く作業をしている。

写真35 J11A 36

横穴式石室玄室床面の遺物出土状況。手前に鉄鏝、奥に鉄刀類と思われる鉄製品が検出されているが、詳細な位置は不明。各所に荷札が付され、手前には折尺が見える。撮影方向等不明。

写真36 J11A 37

横穴式石室玄室床面の遺物出土状況。鉄製品が散見されるが詳細不明。実測用の水系が縦横に張られている。撮影方向等不明。

写真37 J11A 38

横穴式石室玄室床面の遺物出土状況。左側には環状斜格子文杏葉が見える。他に多数検出されている細長い鉄製品は籠手の篠札と思われる。手前には実測用の水系が張られている。撮影方向等不明。

写真38 J11A 39

横穴式石室玄室床面の遺物出土状況。手前には鉄鏝が多数検出されている。上部に看取できるのは右側壁と思われる。東から西に向かって撮影されている。実測用の水系が張られ、右手前には折尺が見られる。

写真39 J11A 40

横穴式石室玄室床面の遺物出土状況。奥には鉄鏝と思われる鉄製品が看取できる。手前に見えるのは鉄剣の鞘の可能性がある。実測用の水系が張られている。撮影方向等不明。

写真40 J11A 41

横穴式石室玄室床面の遺物出土状況。鉄刀などが折り重なるよう

に出土している。

写真41 J11A42

写真42 J11A43

「懸金具」の出土状況。玄室右側壁の最前部と天井石の間に「懸金具」が挟み込まれた状態で検出された。写真は撮影されていないが、同じく玄室左側壁の最前部と天井石の間にも「懸金具」が検出されている。玄室前壁や側壁に白い文字が記されているのは、石室解体直前に撮影されたことを示す。左右の「懸金具」は抜き取ることができず、石室解体時に取り上げられたものと思われる。北から南に向かって撮影されている。

写真43 J11A44

遺物取り上げ終了後の玄室床面の状況を玄門側(南)から奥壁(北)に向かって撮影している。

写真44 J11A45

撮影場所は不明。遺物取り上げ終了後の玄室床面であろうか。折尺で方位を示す。南南東から北北西に向かって撮影されている。

写真45 J11A46

墳丘の削平状況。ピントが合っておらず詳細不明。撮影方向も不

明。

写真46 J11A47

墳丘の削平状況。左側では墳丘が削平されている。右側はまだ削平を受けておらず、男性四人が墳頂に立ち、下を見ている。撮影方向等不明。

写真47 J11A48

墳丘の削平状況。左側ではブルドーザーが墳丘を削平している。右側はまだ削平を受けておらず、男性五人が墳頂に立ち、下を見ている。撮影方向等不明。

写真48 J11A49

墳丘の削平状況。写真46・47と同じ場所の遠景。墳丘を広範囲に削平している状況が看取できる。墳頂には男性五人の姿が見える。撮影方向等不明。

写真49 J11A50

墳丘の削平状況。墳頂部に男性五人の姿が見える。撮影方向等不明。

写真50 J11A51

墳丘の削平状況。墳丘上には二台のブルドーザーが見える。作業を見守る男性三人の姿が見える。手前側の平坦地には軽トラク一台が置かれている。側面には「高須建設」の文字が看取できる。おそらく古墳の南から北に向かって撮影したと思われる。

写真51 J11A52

城山三号墳の削平状況。城山三号墳は一辺約一九mの方墳で、城山一号墳の北約一五〇mに立地する。小見川高校の建設時に墳丘の北側および西側を大きく削平している。本写真はその際に撮影されたものと思われる。古墳の北から南に向かって撮影した可能性が高い。なお、本写真は、写真228（J11B86）、写真229（J11B87）、写真230（J11B88）、写真232（J11B89）と同一古墳を撮影している。写真228、230には墳頂部に立てられた石碑が看取できるが、この石碑は写真251（J11B109）に撮影されている石碑と同一と思われる。この石碑には「古塚灵供養塔」と刻まれており、現在でも城山三号墳の墳裾（東側）に立てられている（平野一九九七⁴）。

※前稿（犬木二〇一六）の表一では「城山二号墳」と記載したが、「城山三号墳」の誤記なのでここに訂正する。

写真52 J11A53

横穴式石室の解体・移築を前提として、天井石および控え積みを露出させた状況。向かって右側に羨門が見えることから、右側壁の

控え積みを西から東に向かって撮影したと思われる。天井石については奥側（東側）を残し、手前側（西側）のみ露出させている。これは、報告書における「まず西側半分の粘土を除去して西側壁石の背後を見た」という記述状況と合致する（丸子ほか一九七八、四三頁）。控え積みに折尺を立て掛けている。奥には男性二人の姿、遠景には住宅一戸が見える。

写真53 J11A54

横穴式石室の解体・移築を前提として、天井石および控え積みの全体を露出させた状況。向かって右側手前に羨門が見えることから、羨門および右側壁の控え積みを南西から北東に向かって撮影したと思われる。羨道の天井石は、玄室の天井石よりもやや低くなっている。写真52と同じく、控え積みに折尺を立て掛けている。羨門の西側にはスコップを立て掛けて、同部の石材には「十一月四日より十九日 完了」という文字が書かれている。

写真54 J11A55

横穴式石室の解体・移築を前提として、天井石および控え積みを露出させた状況。右側壁の控え積みを北西から南東に向かって撮影したと思われる。天井石については奥側（東側）を残し、手前側（西側）のみ露出させている。羨門の石材には「十一月四日より十九日 完了」という文字が書かれている。写真53・54と同じく、折

尺ヤスコップが見える。遠景には丘陵下の水田および集落風景が広がる。

写真55 J11A56

横穴式石室の解体・移築を前提として、天井石および控え積みの全体を露出させた状況。向かって右側が羨門で、右側壁の控え積みを西から東に向かつて撮影する。羨道の天井石が、玄室の天井石よりもやや低くなっている状況が看取できる。控え積みに折尺を立て掛けている。奥側(東側)に見える林には城山三号墳が位置している。

写真56 J11A57

写真57 J11A58

写真58 J11A59

写真59 J11A60

写真60 J11A61

写真61 J11A62

墳丘の土層断面の状況。写真六 points の撮影範囲は少しずつ重複しており、墳丘土層の連続写真と思われる。写真61が左端で、写真60・59・58・57を経て、右端の写真56に至る。墳丘の断面形状などからみて、写真57に写っている墳丘断面は前方部と思われる、向かって左側(写真61側)が後円部、向かって右側(写真57側)が前方部と思

われる。東から西に向かつて撮影されていると推測される。

写真62 J11A63

トレンチの調査状況。詳細不明。測量用のポールが立てられ、壁面には水糸が張られている。

写真63 J11A64

写真64 J11A65

発掘調査前の「抜魂法要」の様子。撮影場所・撮影方向等不明。

写真65 J11A66

前方部西側形象埴輪列のうち、男子埴輪頭部および馬形埴輪脚部の出土状況。奥側が前方部墳丘である。向かって右側が後円部、左側が前方部である。左に馬形埴輪、右に男子埴輪が見られる。馬形埴輪は報告書の第六一図左(丸子ほか一九七八、図版四六―三)、男子埴輪は報告書のNo.128(同前、第五五図、図版三七)に該当する。報告書では「前方部北側から後円部にかけて武装男子・黄色大きい馬・赤褐色の小さい馬・武装男子・両手を上げる男子・女子・男子・などとなり、最後に家形埴輪が置かれて後円部の円筒埴輪に接続していた」と記される(丸子ほか一九七八、三六頁)。本写真の馬形埴輪はこのうち「黄色大きい馬」に相当し、種々の特徴から「非下絵型」馬形埴輪と見做し得る。男子埴輪も「非下絵型」埴輪である。

南南西から北北東に向かって撮影されている。

写真66 J11A 67

前方部西側形象埴輪のうち、馬形埴輪脚部の出土状況。写真の下方が前方部墳丘である。向かって左側が後円部、右側が前方部である。報告書の第六一図、図版四六一四に該当する（丸子ほか一九七八）。報告書の記載（「前方部北側から後円部にかけて武装男子・黄色大きい馬・赤褐色の小さい馬・武装男子・両手を上げる男子・女子・男子・などとなり、最後に家形埴輪が置かれて後円部の円筒埴輪に接続していた」のうち、「赤褐色の小さい馬」に相当する（同前、三六頁）。この馬形埴輪は種々の特徴から「下総型」馬形埴輪と見做し得る。北東から南西に向かって撮影されている。

写真67 J11A 68

写真65の馬形埴輪脚部（「非下総型」馬形埴輪）・男子埴輪頭部（「非下総型」人物埴輪）および写真66の馬形埴輪脚部（「下総型」馬形埴輪）の出土状況。向かって右側が前方部墳丘である。手前が後円部、奥が前方部である。南南東から北北西に向かって撮影されている。

写真68 J11A 69

写真69 J11A 70

写真70 J11A 71

墳丘西側からみた発掘調査風景。写真68は前方部側面を写す。左端部にはテントの一部が見える。写真69・70は連続写真になっており、左にくびれ部、右に後円部が見える。西から東に向かって撮影する。墳丘下段では埴輪列の調査が行われており、作業員に交じって、小見川高校生と思われる学生多数が作業をしている。右端には、後円部に設定されたトレンチを調査する様子が看取できる。

写真71 J11A 72

トレンチの土層断面の状況。詳細不明。

写真72 J11A 73

丘陵下の水田・集落風景。写真8と同一の屋敷林が写っているが、写真8よりもやや南から撮影されており、おそらく城山一号墳の墳頂部やその周辺から撮影されたと思われる。遠景の左端には黒部川が見える。ほぼ西から東に向かって撮影していると思われる。

写真73 J11A 74

後円部下段の円筒埴輪列の検出状況。報告書では「後円部西側の円筒埴輪」というキャプションが付されている（丸子ほか一九七八、図版四一七）。厳密には、後円部西側にトレンチは設定されていないが、やや疎らに設置された円筒埴輪の配置状況などを見ると、後円

部円筒埴輪列を検出するためのトレンチの「西端」部を、東から西に向かつて撮影したものと思われる(トレンチ番号不明)。その場合、本写真には、円筒埴輪No.162、No.170、No.170の一〇個体が撮影されていることになる。

写真74 J11A75

やや不明瞭ながら、下方に写っている鍬の柄が、写真73の遠方に写っている鍬の柄と同一ならば、本写真は、写真73の東側の部分に相当する。後円部円筒埴輪列の検出を行っている段階では、後円部南側に開口する横穴式石室は未検出であり、当該箇所9トレンチも未設定であるが、写真73や本写真にも9トレンチは写っていない状況である。

写真75 J11A76

丘陵下の水田・集落風景。写真8と同一の屋敷林が写っているが、写真8よりもより南から撮影されており、おそらく城山一号墳の墳頂部やその周辺から撮影されたと思われる。写真72よりもやや南側を撮影しているものと思われる。

写真76 J11A77

円筒埴輪列の検出状況。円筒埴輪はやや間隔を置きながら概ね直線的に検出されている。前方部北側の可能性があるが、後円部北西

側でもやや間隔を置きながら直線的に配置されている箇所もあり、断定できない。

写真77 J11A78

埴輪列の検出状況。報告書では、「前方部西側の形象埴輪列」というキャプションが付されている(丸子ほか一九七八、図版四一下)。写っている埴輪三点のうち、左の埴輪は全身像の下半部、中央の埴輪は半身像の下半部のようにも見えるが、やや不明瞭である。

写真78 J11A79

報告書では、「見学者への説明(西側部分で)」というキャプションが付されている(丸子ほか一九七八、二五頁)。「見学者」の写真68の左端に写っているテントは古墳の北西に位置しており、本写真のテント二張と同一の可能性はある。テントには「記念」の文字が見られる。

写真79 J11A80

写真80 J11A81

形象埴輪の出土状況。二個体とも人物埴輪の基台部と思われる。写真79と写真80はほぼ同じ画角で撮影されている。

写真81 J11A82

写真82 J11A 83

左は人物増輪の基台部と思われる。右は破片が集積されており器種等不明。写真81と写真82はほぼ同じ画角で撮影されている。

写真83 J11A 84

写真84 J11A 85

ブルドーザーが墳丘を削平している状況。車体側面の「CAT D」の文字から、アメリカ合衆国に本社を置くキャタピラー社(CATERPILLAR CORP.)のブルドーザーであることがわかる。

写真85 J11A 86

写真86 J11A 87

墳丘削平時の土層断面と思われる。分層はされていない。報告書には、「東側および前方部墳丘の切断調査」という記述がみられるので(丸子ほか一九七八、四三頁)、写真83・94は、そのいずれかの土層断面写真の可能性がある。なお、墳丘断ち割り時の土層断面図は、報告書に掲載されていない。ちなみに、各トレンチの土層断面も、報告書に掲載されていない。撮影場所・撮影方向等不明。

写真87 J11A 88

写真88 J11A 89

写真89 J11A 90

写真90 J11A 91

写真91 J11A 92

墳丘削平時の土層断面と思われる。分層されている。撮影場所・撮影方向等不明。ポール(検測桿)が立てられている。同一箇所において、下から上に向かって、写真87・88・89・90・91という五枚の写真に分割撮影したものである。

写真92 J11A 93

写真93 J11A 94

写真94 J11A 95

墳丘削平時の土層断面と思われる。分層されている。撮影場所・撮影方向等不明。ポール(検測桿)が立てられている。同一箇所において、下から上に向かって、写真92・93・94という三枚の写真に分割撮影したものである。

写真95 J11A 96

写真96 J11A 97

写真97 J11A 98

墳丘削平時の土層断面と思われる。分層はされていない。撮影場所・撮影方向等不明。ポール(検測桿)が立てられている。同一箇所において、下から上に向かって、写真95・96・97という三枚の写真に分割撮影したものである。

写真 98 J11A 99

写真 99 J11A 100

墳丘削平時の土層断面と思われる。写真 98・99 はほぼ同一画角である。撮影場所・撮影方向等不明。

写真 100 J11A 101

ブルドーザーが墳丘を削平している状況。写真 84 と類似。

写真 101 J11A 102

写真 102 J11A 103

墳丘削平時の土層断面と思われる。詳細不明。

写真 103 J11A 104

写真 104 J11A 105

写真 105 J11A 106

写真 106 J11A 107

墳丘削平時の土層断面と思われる。写真 103・105 は、若干の相違はあるがほぼ同じ範囲を撮影。写真 106 はやや広い範囲を撮影。いずれも折尺が立て掛けられている。撮影場所・撮影方向等不明。

写真 107 J11A 108

写真 108 J11A 109

墳丘削平時の土層断面と思われる。ほぼ同じ範囲を撮影。下方に箱尺が置かれている。撮影場所・撮影方向等不明。

写真 109 J11A 110

写真 110 J11A 111

前方部墳頂の埴輪片出土状況。報告書では「前方部上では抜根のためか攪乱がひどく埴輪片の散乱のみで基底部位置の確認はできなかった」と記されている(丸子ほか一九七八、三五頁)。写真 109・110 はほぼ同じ範囲を撮影する。右寄りやや奥にトレンチの上端部が見える。トレンチ配置図によれば(図二)、前方部墳頂にかかるような位置にトレンチは設定されていないが、1 トレンチの南端が写っている可能性が高い。その場合、写真 109・110 は、南から北に向かって撮影されていることになる。

写真 111 J11A 112

写真 112 J11A 113

前方部墳頂の埴輪片出土状況。写真 111・112 はほぼ同じ範囲を撮影する。写真 109・110 と直交する方向から撮影されている。写真 109・110 が南から北に向かって撮影されるとすれば、写真 111・112 は、西から東に向かって撮影されていることになる。写真 111・112 の奥側には、古墳の東側に広がる平坦な削平面と思しきものが写っており、上記の推定と符合する。

写真113 J11A114

写真114 J11A115

前方部墳頂の埴輪片出土状況と思われる。写真113・114はほぼ同じ範囲を撮影する。写真109・112とは撮影方向・撮影場所が異なっているようである。右奥には測量機器の三脚およびポール（検測桿）が見える。その脇には人が写っている。

写真115 J11A116

城山四号墳出土の人物埴輪。基台部から裾部および裾部上端突帯にかけて残存する。本埴輪は、轟俊二郎の『埴輪研究 第一冊』にも城山四号墳出土人物埴輪として写真が掲載されているが（轟一九七三、七一頁）、現在所在が不明である。写真116と同じく、「下総型」人物埴輪と思われる。

写真116 J11A117

城山四号墳出土の人物埴輪。基台部から裾部にかけて残存する。現在、香取市文化財保存館に保管されており、近藤麻美により資料紹介されている（近藤二〇一四、図六・七）。「下総型」人物埴輪である。なお、本埴輪は、轟俊二郎の『埴輪研究 第一冊』には掲載・紹介されていない。

写真117 J11A118

城山四号墳出土の人物埴輪。上半身から頸部および顔面の下半が残存する。現在、香取市文化財保存館に保管されており、近藤により資料紹介されている（近藤二〇一四、図四）。「下総型」人物埴輪である。なお、本埴輪は、轟俊二郎の『埴輪研究 第一冊』には掲載・紹介されていない。

写真118 J11A119

城山四号墳出土の人物埴輪・円筒埴輪。三個体とも香取市文化財保存館に保管されており、近藤により資料紹介されている（近藤二〇一四）。左の人物埴輪は、「下総型」人物埴輪の破片である（同前、図五）。上下逆に撮影されている。中央は「下総型」円筒埴輪（同前、図三三）、右側も「下総型」円筒埴輪（同前、図三四）である。

写真119 J11A120

城山四号墳出土埴輪。左は馬形埴輪の脚部破片（近藤二〇一四、図九）。右は所在不明のため詳細不明。

写真120 J11A121

写真121 J11A122

土器類の写真。器種・出土遺跡・遺構等詳細不明。

写真122 J11A123

写真123 J11A124

子持勾玉の写真。出土遺跡・遺構等詳細不明。

写真124 J11A125

出土遺物の写真。出土遺跡・遺構等詳細不明。

写真125 J11A126

写真126 J11A127

写真127 J11A128

写真128 J11A129

横穴式石室解体に伴う調査状況。いずれも光量不足でやや不鮮明である。写真27には左側の側壁、写真28には右側の側壁が写っている。天井石を丸太で支えている状況も看取できる。解体・移築に備えて、各石材には番号が振られている。写真27の石材には、349・350・351・352・353・354・355、写真28の石材には、243・244などの数字が見える。

写真129 J11A131

写真130 J11A132

写真131 J11A133

横穴式石室解体に伴う調査状況。いずれも光量不足でやや不鮮明

である。奥壁および、奥壁に接続する左右の側壁部分が写っている。天井石や側壁は倒壊しないように丸太で支えられている。解体

・移築に備えて、各石材には番号が記されている。

写真132 J11A134

写真133 J11A135

写真134 J11A136

城山一号墳出土の人物埴輪。「下総型」人物埴輪の典型例である。ただし、一九六三(昭和三八)年の発掘調査で出土したものではなく、それ以前に、偶然出土した人物埴輪を北詰栄男氏が採集・保管していたものである。⁽⁷⁾ 写真133は全身写真、写真134・135は上半身の拡大写真である。

写真135 J11A137

写真136 J11A138

写真137 J11A139

千葉県香取市(旧香取郡小見川町)に所在する三ノ分目大塚山古墳の後円部墳頂にある組合式石積石材の写真。結晶片岩製である。

写真138 J11A140

三ノ分目大塚山古墳の近景。詳細不明。

写真139 J11A141

写真140 J11A142

三ノ分目大塚山古墳の遠景。二枚の写真からなる連続写真。南西側から撮影したものと思われる。左側が後円部、右側が前方部である。

写真141 J11A143

写真142 J11A144

三ノ分目大塚山古墳の遠景。二枚の写真からなる連続写真。南西側から撮影したものと思われる。左側が後円部、右側が前方部である。

写真143 J11B1

墳丘の遠景。発掘調査の開始前に撮影されたものと思われる。右側が後円部、左側が前方部と思われ、谷を挟んで西側の尾根上から撮影されたものと思われる。

写真144 J11B2

写真145 J11B3

墳丘の遠景。発掘調査の開始前に撮影されたものと思われる。左側が前方部、右側が後円部である。手前に見える道は、城山一号墳が立地する尾根部の西側から北側にのびる谷部を通る道と思われる。

る。北西から南東に向かって撮影されている。

写真146 J11B4

写真147 J11B5

写真148 J11B6

墳丘の遠景。発掘調査開始の直前に撮影されたものと思われる。左側が後円部、右側が前方部である。東から西に向かって撮影されている。古墳の東側墳裾は、調査以前より畑の耕作により削り込まれていたようである。その右手前側（東側および北東側）が大きく削平されている様子が看取できる。写真146に一台、写真148に二台のブルドーザーが写っている。ブルドーザーが削平している部分は、小見川高校のグラウンドになる部分である。報告書によれば、「古墳の調査を要請された」丸子亘が、「現地におもむいた」時点では、「既に松林も切り払われ、古墳の東側は、ブルドーザーで30m付近まで作成され、校庭部分はほぼ整地が終了していた」と記すが（丸子ほか一九七八、二四頁）、おそらくその頃、撮影された写真であると思われる。

写真149 J11B7

写真150 J11B8

写真151 J11B9

写真152 J11B10

墳丘の遠景。左側が後円部、右側が前方部である。東から西に向かつて撮影されている。墳丘の各所には発掘作業中の高校生や作業員の姿が見えるので、発掘調査開始後の撮影と思われる。写真146、148と比べても、墳丘墳裾や下段付近までブルドーザーによる削平が及んでいることがわかる。写真149・150・152に二台、写真151に一台のブルドーザーが見える。

写真153 J11B11

写真154 J11B12

墳丘の遠景。写真144・145とほぼ同一方向から撮影されている。左側が前方部、右側が後円部である。北西から南東に向かつて撮影されている。手前の道や、右手前の段々畑は、写真144・145にも撮影されている。墳丘上には高校生や作業員の姿が見える。墳丘の北西側もかなり削平が進行している状況が看取できる。

写真155 J11B13

墳丘の近景。左側が後円部、右側が前方部である。北東から南西に向かつて撮影されている。手前の削平部分(グラウンド部分)には車二台が置かれ、男性二人が古墳の方向に歩いている。墳丘各所に高校生や作業員の姿が見える。

写真156 J11B14

墳丘の近景。左側が後円部、右側が前方部である。北東から南西に向かつて撮影されている。写真154とほぼ同じ方向から撮影する。墳丘手前側(東側)にはブルドーザー二台が見られ、墳丘中腹まで削平が進んでいる状況が見える。墳丘上には高校生や作業員と思しき姿が多数見られる。掘削作業と発掘作業が並行して行われるという、現在では考えられないような発掘調査風景である。

写真157 J11B15

後円部の周りに調査状況を見学する人々。南南東から北北西に向かつて撮影する。中央やや左寄りに横穴式石室の調査区の一部が見える(写真158との比較検討による)。どの時点か限定できないが、横穴式石室が「発見」され、石室内外の発掘調査が佳境に入る頃、周辺住民を含む多くの人々が見学に訪れている様子が看取できる。

写真158 J11B16

前方部西側(左側)における形象埴輪列の検出状況。埴輪列の右側が前方部墳丘である。南から北に向かつて撮影されている。埴輪列の手前側がくびれ部、奥側が前方部隅角の方向である。形象埴輪列のうち、手前側に「下総型」人物埴輪の下半部、少し距離を置いて「下総型」人物埴輪の下半部、さらに距離を置いて「下総型」人物埴輪が複数見える。その奥には、「非下総型」人物埴輪の下半部が看取できる⁸⁾。左奥には、発掘作業に従事する高校生の姿が見え

る。

写真159 J11B17

前方部西側（左側）における形象埴輪列の検出状況。埴輪列の右側が前方部墳丘である。南から北に向かって撮影されている。写真157と概ね同一方向である。埴輪列の手前側がくびれ部、奥側が前方部隅角の方向である。手前側に複数の「下総型」人物埴輪、奥側に「非下総型」人物埴輪が検出されている。左奥には作業員等の姿が見える。調査区内には、鍬や梯子などが置かれている。

写真160 J11B18

前方部西側（左側）における形象埴輪列の検出状況。埴輪列の右側が前方部墳丘である。南から北に向かって撮影されている。写真157・158と概ね同一方向である。埴輪列の手前側がくびれ部、奥側が前方部隅角の方向である。手前側に複数の「下総型」人物埴輪、奥側に複数の「非下総型」人物埴輪が検出されている。奥側には、調査を見学する制服姿の学生の姿が見える。調査区内には、鍬や梯子などが置かれている。

写真161 J11B19

前方部西側（左側）における形象埴輪列の検出状況。写真158・160と比べてやや角度を変えて撮影する。埴輪列の右側が前方部墳丘、

埴輪列の手前側がくびれ部、奥側が前方部隅角の方向である。南南西から北北東に向かって撮影する。右手前に「下総型」人物埴輪が二体、その奥に「非下総型」人物埴輪が複数個体検出されている様子が看取できる。

なお、形象埴輪列のやや奥寄りの部分で、向かって右側（前方部墳丘側）にトレンチが設定され、掘り下げられている状況が見える。報告書には前方部西側面にトレンチを設定したという記述はないが、最終段階で「前方部中央を長軸と直交するように切断して墳土の築盛法を見た」という記述が見られるので（丸子ほか一九七八、三四頁）、その「断ち割り」箇所が該当する可能性がある。当該「断ち割り」箇所と形象埴輪列が交差する部分では、そこで検出されている人物埴輪基台部の周囲に木杭を四方に立てている。当該埴輪を保護する目印の可能性がある。

写真162 J11B20

前方部西側（左側）における形象埴輪列の検出状況。埴輪列の右側が前方部墳丘である。南から北に向かって撮影されている。埴輪列の手前側がくびれ部、奥側が前方部隅角の方向である。右手前側に「下総型」人物埴輪一体、奥側に複数の「非下総型」人物埴輪が検出されている。右手前には高校生の姿が見える。

写真163 J11B21

前方部西側(左側)における形象埴輪列の検出状況。埴輪列の左側に、前方部の墳丘が見える。西北西から東南東に向かって撮影されている。埴輪列の手前側が前方部隅角、奥側がくびれ部の方向である。写真158・162とは逆方向から撮影する。左手前側に複数の「非下総型」人物埴輪、右奥側に複数の「下総型」人物埴輪が検出されている。調査区内にはスコップや鍬、竹製の箕や籠、木箱などが見える。前方部の墳丘上には多数の人が写っている。

写真164 J11B22

「下総型」人物埴輪の出土状況(拡大写真)。写真158・159において一番手前に写っている「下総型」人物埴輪と同一である。「ハニワNo.14311・6」と記された荷札が棒に付されている。また本埴輪は、報告書の第五二図および図版三三に掲載されている人物埴輪、また犬木一九九五論文における「人物埴輪No.6」と同一である。北北西から東南東に向かって撮影されている。

写真165 J11B23

写真164と同様に、形象埴輪列の調査区および、前方部墳丘「断ち割り」トレンチとの交差部分。奥に写っているのは、前方部墳丘の「断ち割り」トレンチの一部であろうか。東側のトレンチ壁も見えており、それほど奥まで(東まで)掘り進んでいるわけではない。北北西から東南東に向かって撮影されている。西から太陽光を受け

ており、夕方にかけての時間帯に撮影されたものと思われる。

写真166 J11B24

形象埴輪列のうち、前方部墳丘「断ち割り」トレンチとの交差部分よりも北側の部分を撮影する。向かって左側が前方部先端側と思われる。西から東に向かって撮影されている。左右に二体の埴輪が見られる。向かって左側は全身像の基台部と思われる。向かって右側にも全身像の脚部と思しき破片が見られる。

写真167 J11B25

後円部墳頂における円筒埴輪列検出状況。四人の男性が作業に当たっている。右から二人目は作業員だが、他の三人は学帽を被っており小見川高校の生徒と思われる。中央には、左手前から右奥に向かって、円筒埴輪列が検出されている。中央右寄りに写っている、最下段の長い特徴的な埴輪は、写真30・31・33・34にも写っており、この円筒埴輪列は、「後円部墳頂円筒埴輪列」の北端部を、南南西から北北東に向かって撮影したものと思われる。右遠方には、城山三号墳およびその周辺の松林が写っており、その手前にはテント二張が見える。左遠方には、城山一号墳の北側を通る里道が見え、自動車一台が停まっている。

写真168 J11B26

写真167と同じく、後円部墳頂における円筒埴輪列検出状況。左から右に向かって円筒埴輪列が検出されている。「後円部墳頂円筒埴輪列」の北端部を、南西から北東に向かって撮影されたものと思われる。右手前および左奥に作業員の姿が見える。右奥にはテント二張が見える。城山三号墳付近と思われる。

写真169 J11B27

写真167・168と同じく、後円部墳頂における円筒埴輪列検出状況。手前から奥に向かって円筒埴輪列が検出されている。「後円部墳頂円筒埴輪列」の北端部を、西から東に向かって撮影する。発掘調査に参加する小見川高校の男子高校生三人の姿が見える。右側の一人は裸足で作業にあたり、左側の一人は鍬をふるっている。左奥には作業を注視する男性二人が見える。

写真170 J11B28

後円部墳頂における円筒埴輪列検出状況。発掘調査に参加する小見川高校の男子高校生二人の姿が見える。写真169に写っている人物と同一と思われる。ほぼ西から東に向かって撮影されたものと思われる。

写真171 J11B29

後円部墳頂における円筒埴輪列検出状況。写真29に撮影されている

る「隆起斜道右側円筒埴輪列」の状況とも異なっており、「隆起斜道左側円筒埴輪列」を北北西から南南東に向かって撮影したものである。左には男子高校生二人、右奥には男性数人が見える。奥には横穴式石室の調査区の周囲に張られているロープと木杭が見える。奥には、城山丘陵の南から東に広がる水田風景が僅かに見えおり、上記の撮影方向とも矛盾しない。

写真172 J11B30

後円部墳頂における円筒埴輪列の調査風景。僅かに見える水田風景から、写真171と同じく、「後円部墳頂円筒埴輪列」の北端部を、北北西から南南東に向かって撮影されたものと思われる。左には作業中の男子高校生複数、右には円筒埴輪列を覗き込む男性数人の姿が見える。

写真173 J11B31

後円部墳頂における円筒埴輪列の調査風景。詳細は不明ながら、僅かに見える遠景の状況から判断すると、「隆起斜道右側円筒埴輪列」の一部である可能性が高い。左奥から右奥に張られている紐は、墳丘東側の削平部の縁を示すと思われる。

写真174 J11B32

写真175 J11B33

円筒埴輪の検出状況。写真174・175は同一円筒埴輪を撮影。第一段目および第二段目の下半が遺存する。第二段目の透孔の一部が見える。円筒埴輪の樹立位置や撮影方向等不明。

写真176 J11B 34

円筒埴輪の検出状況。写真174・175とは別個体の円筒埴輪。第一段目および第二段目、第二突帯付近まで遺存する。円筒埴輪の樹立位置や撮影方向等不明。

写真177 J11B 35

円筒埴輪列の検出状況。円筒埴輪列がほぼ直線をなし、埴輪どうしの間隔が比較的疎らなので、前方部下段の円筒埴輪列である可能性が高い。撮影方向等詳細不明。

写真178 J11B 36

円筒埴輪列の検出状況。円筒埴輪列がほぼ直線をなし、埴輪どうしの間隔が比較的疎らなので、前方部下段の円筒埴輪列である可能性が高い。向かって左側が墳丘側である。撮影方向等詳細不明。

写真179 J11B 37

後円部南西側で検出された「粘土敷」と思われる。この「粘土敷」については、「後円部南々西の中腹で円筒埴輪列に接し、墳丘

中心部にむかつて厚さ約5cm、広さ3mの不整形の粘土敷が確認され、上部から土師器、須恵器を検出した」と記述されている(九子ほか一九七八、三五頁)。円筒埴輪列の検出中に須恵器片が検出されたため、その範囲および性格を確認する目的で5トレンチが設定され、この「粘土敷」の確認に至ったのである。報告書に「粘土敷」の写真は掲載されていないが、本写真は「粘土敷」を撮影したものである。

本写真の「粘土敷」上には須恵器や土師器が集積された状態で置かれている。左奥には横穴式石室の閉塞石と思われる石材が並べられており、ほぼ南から北に向けて撮影されたものと思われる。「粘土敷」の周囲にはロープが張られている様子が看取できる。

写真180 J11B 38

写真179と同じく、後円部南西側で検出された「粘土敷」の写真。写真179よりも近くから撮影している。写真179とはやや撮影方向が異なり、北北西から南南東に向けて撮影されたものと思われる。

写真181 J11B 39

横穴式石室および排水溝⁹⁾の検出状況。横穴式石室の「閉塞板石」は外されているが、その内側に積まれた「閉塞積石」はまだ原位置の状態に残されている。「閉塞積石」の前面には測量用の水系が張られている。石室前方の「排水溝」は石敷の上面が検出された状態

で、測量用の水糸が張られているのが看取できる。奥に二人の作業員、右手前に男子高校生一人が作業をしている。南南西から北北東に向かって撮影されたものと思われる。

写真182 J11B40

横穴式石室前方の「排水溝」の東側の土層断面写真。土層断面は分層され、下部には折尺が置かれている。写真図と同じく、「排水溝」には測量用の水糸が張られている。右上には松林の一部が僅かに見えるが、方角から見ても、城山三号墳周辺の松林に連なるものと思われる。南西から北東に向かって撮影されたものと思われる。

写真183 J11B41

横穴式石室の羨門部における「閉塞積石」の検出状況。「閉塞積石」の前面には測量用の水糸が張られている。「排水溝」測量用の水糸を張るための木杭も看取できる。南南西から北北東に向けて撮影されている。

写真184 J11B42

横穴式石室の羨門部における「閉塞積石」の検出状況を、やや高い位置から撮影している。「閉塞積石」の前面および「排水溝」上面には測量用の水糸が張られている。左側の人は、「閉塞積石」の実測作業中と思われる。東から西に向かって撮影されている。

写真185 J11B43

横穴式石室の写真撮影風景。手前にはカメラが三脚に据えられている。開口部の外側には、蓆が敷かれており、報道関係者などへの内部公開がなされている可能性がある。石室の外側には三人の人が立ち、石室内部の様子をうかがっている。写真の奥側、後円部墳頂には、多数の高校生（男子および女子）が調査の様子を見学している。南から北に向かって撮影されている。

写真186 J11B44

横穴式石室前方の「排水溝」を上から撮影している。石室の前面には二枚の蓆が敷かれているのが見える。開口部のすぐ近くにはスーツ、ネクタイ姿の男性がおり、右側には、首にカメラを提げた鳥打帽の男性が見える。左奥には、腰を屈めて写真を撮影する男性がいる。

多数の人々が周囲を取り巻き、石室調査の様子を見守っている。北から南に向かって撮影されている。

写真187 J11B45

横穴式石室前方の「排水溝」を斜めに撮影する。左端には蓆が敷かれている。その右側には男性一名が立っている。南西から北東に向かって撮影されている。

写真188 J11-B 46

横穴式石室の調査を見学する人々。老若男女、総勢七〇名近くに及ぶ。石室の入口近くには高校生の姿も見えるが、他は近隣の住民と思われる。十一月一日(月)に石室閉塞石が除去され、石室開口の情報を聞き付けた人々が詰め掛けている状況と思われる。その一方で、写真奥側でブルドーザーが削平作業を続けているのは対照的な光景である。その奥には、水田風景が僅かに見える。東北東から西南西に向かって撮影されている。

写真189 J11-B 47

横穴式石室の調査を見学する人々。写真188と同様な光景であるが、集まっている人々の顔ぶれは異なっており、二枚の写真には若干の時間差があるようである。写真188と同様に、石室の入口近くには高校生の姿が見え、周囲を取り巻くように七〇名ほどの周辺住民が集まっている。東北東から西南西に向かって撮影されている。

写真190 J11-B 48

横穴式石室の内部を見学する人々。女子高校生が大半を占める。羨門左上部およびその前方には蓆が二枚、左手前には箕一個がみえる。南西から北東に向かって、やや上方から撮影されている。

写真191 J11-B 49

横穴式石室の見学に訪れた人々。中央には地域の「有力者」風の人が笑顔を見せている。その他、作業員や子供の姿も見える。ほぼ西から東に向かって撮影されている。

写真192 J11-B 50

横穴式石室の石材。形や大きさからみて、おそらく「閉塞積石」の石材と思われる。それぞれ番号を付して取り上げている。写真179の左上に写っている石材と同一と思われる。右側に一人の人が写り、その奥には、横穴式石室の一部が僅かに写る。やや不明瞭だが、南西から北東に向かって撮影されている。

写真193 J11-B 51

横穴式石室内部の副葬品検出状況。玄室の右側(西側)奥の状況。右奥隅部では、鉄刀八振が鋒を下に向け奥壁に立て掛けた状態で検出されているが、本写真はそれらを取り上げた後に撮影されたものである。詳細は不明瞭ながら、玄室床面に多数の鉄刀剣類や鉄鏃類が検出されている状況が看取できる。中央には実測用の水糸が張られている。左側が明るいのは、右側壁側に吊り下げられた白熱灯による。南から北に向かって撮影されている。

写真194 J11-B 52

横穴式石室内部の副葬品検出状況。玄室の左側壁および左側(東

側)奥の状況。詳細は不明ながら、玄室床面に多数の鉄製品が検出されている状況が看取できる。左側には実測用の水系が張られている。

写真195 J11B53

横穴式石室の右側壁の状況。奥の方に、白熱灯が吊り下げられている。南から北に向かって撮影されている。

写真196 J11B54

横穴式石室の左側壁の状況。南から北に向かって撮影されている。

写真197 J11B55

横穴式石室の右側壁の状況。向かって左側から人が石室内部を覗き込んでいる。ほぼ南から北に向かって撮影されている。

写真198 J11B56

石室内から出土した三角縁三神五獣鏡。左側の方が、地面に敷いた新聞紙の上に同鏡を載せようとしている。同鏡の取り上げ直後と思われる。奥側にはビニール袋が置かれている。撮影場所・撮影方向等不明。

写真199 J11B57

石室内から出土した三角縁三神五獣鏡。右側の方が、箕の上に敷いた白い布?の上に同鏡を載せようとしている。同鏡の取り上げ直後と思われる。撮影場所・撮影方向等不明。

写真200 J11B58

三角縁三神五獣鏡を左手に載せている。下には白布が敷かれている。同鏡の取り上げ直後と思われる。撮影場所・撮影方向等不明。

写真201 J11B59

写真202 J11B60

写真203 J11B61

箕の上に載せられた三角縁三神五獣鏡。鏡の下にはビニール袋が敷かれている。同鏡の取り上げ直後と思われる。撮影場所・撮影方向等不明。

写真204 J11B62

取り上げられた鉄刀類。七振の鉄刀が板の上に並べられている。報告書の第二八図に掲載された「直刀」七振の可能性が高い。取り上げ直後に撮影されたと思われる。撮影場所・撮影方向等不明。

写真205 J11B63

墳丘の断ち割りトレンチの状況。トレンチ名など不明。撮影場所・撮影方向等不明。

写真206 J11-B 64

トレンチの掘り下げ風景。二人の男子高校生が作業をしている。撮影場所・撮影方向等不明。

写真207 J11-B 65

墳頂部での発掘調査作業風景。一〇人ほどの高校生が掘り下げ作業を行っている。背後に見える松林は、城山三号墳付近の松林と思われる。概ね南西から北東に向けて撮影している。

写真208 J11-B 66

道路に立てられた測量用のポール(検測桿)。左奥には電柱・電線が見えるので、城山丘陵下で撮影されたと思われる。撮影場所・撮影方向等不明。

写真209 J11-B 67

写真210 J11-B 68

耕作地に立てられた測量用のポール(検測桿)。城山丘陵の下で撮影されている。撮影場所・撮影方向不明。写真209には一本、写真210には二本のポールが写っている。

写真211 J11-B 69

耕作地に立てられた測量用のポール(検測桿)。奥側の丘陵斜面の一部が上部に向かって真つすぐに伐採され、途中にもポールが立てられている。丘陵上への進入路の位置などを測量する目的と思われる。撮影場所・撮影方向等不明。

写真212 J11-B 70

写真213 J11-B 71

写真214 J11-B 72

城山丘陵の斜面に立てられた測量用のポール(検測桿)。写真213と写真214は同一場所を撮影。撮影場所・撮影方向等不明。

写真215 J11-B 73

城山丘陵付近の道と思われる。右側には道祖神二基が見られる。撮影場所・撮影方向等不明。

写真216 J11-B 74

写真217 J11-B 75

城山丘陵付近の道と思われる。写真216および写真217はかなり近接した場所と思われる。撮影場所・撮影方向等不明。

写真218 J11-B 76

写真219 J11-B 77

写真220 J11-B 78

城山丘陵上の城山一号墳周辺を削平するブルドーザー。眼下には、手前に水田および小見川町（現香取市）の市街地が見える。その向こうには水田地帯を挟み、東庄町との境をなす丘陵が見える。いずれも概ね北西から南東に向かって撮影されている。

写真221 J11-B 79

城山一号墳付近からのぞむ水田風景。水田脇で立ち上る煙の状況などから、写真218と220とほぼ同時に撮影されたものと思われる。概ね北西から南東に向かって撮影されている。

写真222 J11-B 80

写真223 J11-B 81

城山一号墳の墳丘を削平するブルドーザー。右奥のやや高い場所には人の姿が見られ、墳頂付近の可能性がある。撮影場所・撮影方向等不明。

写真224 J11-B 82

城山一号墳の墳丘を削平するブルドーザー。左奥には作業を見守る複数の人が見られる。撮影場所・撮影方向等不明。

写真225 J11-B 83

写真226 J11-B 84

写真227 J11-B 85

城山一号墳の墳丘を削平するブルドーザー。いずれもブルドーザー自体を大きく撮影する。撮影場所・撮影方向等不明。

写真228 J11-B 86

城山一号墳の東側の削平状況。ブルドーザーの姿も見える。奥には城山三号墳が見える。墳裾が削平されている状況が看取できる。城山三号墳の墳頂に、「古塚呉供養塔」が見える。奥には松林が広がる。東南東から西北西に向かって撮影されている。

※前稿（大木二〇一六）の表一では「城山二号墳」と記載したが、「城山三号墳」の誤記なのでここに訂正する。

写真229 J11-B 87

城山三号墳の墳裾削平状況。墳頂には「古塚呉供養塔」が見える。奥には松林が広がる。東南東から西北西に向かって撮影されている。

※前稿（大木二〇一六）の表一では「城山二号墳」と記載したが、「城山三号墳」の誤記なのでここに訂正する。

写真230 J11-B 88

城山三号墳の墳裾削平状況。墳頂には「古塚吳供養塔」が見える。奥には松林が広がる。南東から北西に向かって撮影されている。

※前稿(大木二〇一六)の表一では「城山二号墳」と記載したが、「城山三号墳」の誤記なのでここに訂正する。

写真231 J11B89

城山三号墳周辺の削平状況。古墳の手前には、ブルドーザー二台が見られる。その手前には、「有力者」風の人物一名が写る。墳丘上には二人の男性が立っている。南東から北西に向かって撮影されている。

※前稿(大木二〇一六)の表一では「城山二号墳」と記載したが、「城山三号墳」の誤記なのでここに訂正する。

写真232 J11B90

写真233 J11B91

城山丘陵周辺の削平状況。中央と左奥に二本のポール(検測桿)が立っている。右手前には木杭が二本設置されている。写真232の左奥に写っているのは、写真11・254・255・256と同様に、城山丘陵上に設置されている「忠霊塔」前面の階段・斜面などと思われる。写真232は、現在の小見川高等学校の東端付近から東方を撮影したものである。写真233もほぼ同様の場所を撮影したものである。

写真234 J11B92

ブルドーザーによる削平状況か。左には人の姿が見える。奥側の斜面には植林がなされている。撮影場所・撮影方向等不明。

写真235 J11B93

写真236 J11B94

右から左に丘陵が伸びており、中央には谷が入っている。写真235の右端には「忠霊塔」が見えている。左側の丘陵頂部には城山六号墳の後円部が写っている。中央の谷は、現在、城山丘陵の南側から小見川高校の正門に向かって登っていく坂道になっている。概ね東南東から西西北西に向かって撮影されている。

写真237 J11B95

写真238 J11B96

写真239 J11B97

城山六号墳の立地する丘陵を撮影する。写真235・236の左半部(南西側)の部分にあたる。写真237ではやや不明瞭であるが、写真238・239には、墳丘の形状が明瞭に写る。向かって右側が後円部、左側が前方部である。写真238・239はほぼ同一画角で、右手前(丘陵下)には農作業を行う二人の人が写っている。概ね東南東から西西北西に向かって撮影されている。

写真240 J11-B 98

城山一号墳の「抜魂儀礼」(抜魂法要)に用いた「供養塔」の様子。正面に「城山有無阿縁諸精霊供養塔」と記されている。撮影場所・撮影方向等不明。

写真241 J11-B 99

写真242 J11-B 100

写真243 J11-B 101

写真244 J11-B 102

写真245 J11-B 103

写真246 J11-B 104

写真247 J11-B 105

写真248 J11-B 106

写真249 J11-B 107

城山一号墳の「抜魂儀礼」(抜魂法要)の様子。法要を執り行う僧侶四名のほか、背広姿の関係者約一〇名や作業員四名程の姿が見られる。写真242には、供養塔背面に記された「昭和三十八年十一月四日 施主 小(見川町)」の文字が見られる。撮影場所・撮影方向等不明。

写真250 J11-B 108

城山一号墳の「抜魂儀礼」(抜魂法要)時の記念撮影と思われる。

右側の人物は、写真231にも写っている。

写真251 J11-B 109

城山三号墳の墳頂に設置されている「古塚吳供養塔」。裏面には、「昭和十一年六月 内山榮三郎 建之」の文字が刻まれている。概ね西から東に向かって撮影されていると思われる。

※前稿(夫木二〇一六)の表一では「城山二号墳」と記載したが、「城山三号墳」の誤記なのでここに訂正する。また、同じく「古塚吳供養塔」と記載したが「古塚吳供養塔」の誤記なのでここに訂正する。

写真252 J11-B 110

小見川城跡に建立されていた石碑の写真。「小見川城址諸霊追福碑」という銘が刻まれている。小見川城は、城山丘陵の南東端に立地していたとされ、戦国時代から近世初期に機能していたと推測される。『千葉県内碑石一覽』(千葉県図書館叢書第五輯、千葉県図書館、一九三四年)には本碑の存在が記載され、「昭和二年十一月」建立と記されるが、現在では所在不明となっている。詳細な撮影場所・撮影方向等不明。

写真253 J11-B 111

現在の城山二号墳墳丘上に建立されている石碑と「階段」状施

設。概ね南東から北西に向かって撮影されている。

写真254 J11B112

写真255 J11B113

写真256 J11B114

城山丘陵の南東端に建立されている「忠霊塔」の写真。『小見川町史』によれば、この「忠霊塔」は、一九六二(昭和三七)年一月一日に完成しており(小見川町史編さん委員会一九九二)、その約一年後の写真と思われる。写真254・255の手前には、「城山第一浄水場」が写っている。「忠霊塔」の周辺は、樹木が成長している現在とは異なり、広く開けている様子が看取できる。写真114は、「忠霊塔」前面の斜面に施された植栽および芝張の部分である。数人の小学生在が写生を行っている。写真254・255は南から北に向かって、写真256は南西から北東に向かって撮影されている。

写真257 J11B115

城山丘陵南東部に設置された「城山第一浄水場」を下からのぞむ。概ね南南東から北北西に向かって撮影されている。

写真258 J11B116

城山丘陵を南側から望む。丘陵上の右側には「城山第一浄水場」が写っている。左側には小見川高校の校舎が写っている。東南東か

ら西北西に向かって撮影されている。小見川高校の新校舎は、一九六三(昭和三八)年一月二日に城山一号墳の発掘調査が終了したのち、ただちに工事が開始され、一九六五(昭和四〇)年一月一日に竣工している。

※前稿(犬木二〇一六)の表一では「小見川中学校」と記載したが、「小見川高校」の誤記なのでここに訂正する。

写真259 J11B117

城山丘陵上の「城山公園」付近の道路を撮影する。上方奥に僅かに見えているのは、「城山公園」内の天満宮、浅間神社、清風荘などが写っている可能性がある。概ね西から東に向かって撮影されていると思われる。

写真260 J11C1 [貝塚史蹟保存会所蔵写真]⁽¹⁰⁾

城山一号墳東側における削平状況。奥に城山一号墳の墳丘が写る。右が後円部、左が前方部である。手前にブルドーザーが写っている。東から西に向かって撮影されている。

写真261 J11C2 [貝塚史蹟保存会所蔵写真]

前方部西側(左側)における形象埴輪列の検出状況。埴輪列の右側が前方部墳丘である。南から北に向かって撮影されている。埴輪列の手前側がくびれ部、奥側が前方部隅角の方向である。手前側に

「下総型」人物埴輪、奥側に「非下総型」人物埴輪が検出されている。

写真262 J11C3 [貝塚史蹟保存会所蔵写真]

西側くびれ部付近における、「下総型」家形埴輪の検出状況。この家形埴輪は、6トレンチのすぐ南側で検出され、No.155という番号が付されている。前方部西側（左側）で検出された形象埴輪列の中では一番端（最南端）に位置している。やや不明瞭であるが、奥側が墳丘側と思われる。概ね西から東に向かって撮影されているものと思われる。城山一号墳における「下総型」家形埴輪の出土状況を示す写真はこれ以外に知られておらず、非常に貴重な写真である。

写真263 J11C4 [貝塚史蹟保存会所蔵写真]

前方部西側（左側）における、「非下総型」人物埴輪の写真。全身像の基台部は原位置で検出されているが、上半身は左奥側に倒れた状態で検出されている。左端にも、「非下総型」人物埴輪の一部が写っている。写真奥が墳丘側であるとすれば、概ね、南西から北東に向かって撮影されている。

写真264 J11C5 [貝塚史蹟保存会所蔵写真]

前方部西側（左側）における馬形埴輪の検出状況。四本の脚は原位置で検出されており、右側に出土破片が集積されている。写真上

方が前方部墳丘側である。向かって右が後円部、左側が前方部である。写真65と同一の馬形埴輪を撮影している。種々の特徴から、「非下総型」馬形埴輪と見做し得る。後円部側には写真65にも写っている男子埴輪の破片が集積するが、本写真の方が多数の破片が看取できる。南西から北東に向かって撮影されている。

写真265 J11C6 [貝塚史蹟保存会所蔵写真]

土器の破片？が集積されている。詳細は不明であるが、後円部南西側の「粘土敷」上で検出された須恵器や土師器の一部であろうか。撮影方向等不明。

写真266 J11C7 [貝塚史蹟保存会所蔵写真]

写真267 J11C8 [貝塚史蹟保存会所蔵写真]

写真268 J11C9 [貝塚史蹟保存会所蔵写真]

写真269 J11C10 [貝塚史蹟保存会所蔵写真]

城山一号墳の「抜魂儀礼」（抜魂法要）の様子。法要を執り行う僧侶や参会者の姿が写っている。撮影場所・撮影方向等不明。

写真270 J11C11 [貝塚史蹟保存会所蔵写真]

九人の集合写真。詳細不明。撮影場所・撮影方向等不明。

三 新たに確認された城山一号墳の

「発掘調査記録写真」

(一) 新たに確認された「発掘調査記録写真」と「写真帖Ⅰ・Ⅱ」
との照合

前稿を提示して以降、城山一号墳の「発掘調査記録写真」について、幾つかの進展があった。香取市教育委員会において、城山一号墳の発掘調査に関連する白黒写真のネガが合計五本分、新たに確認されたのである。

香取市教育委員会によって上記ネガから白黒写真の焼き付けが行われた。ここでは、ネガ①④⑤と仮称する。それぞれのネガについて、撮影内容を簡単にまとめておきたい。

(1) ネガ①の撮影内容

一九六三(昭和三八)年一月に行われた「八千代遺跡」の発掘調査写真一六点および、城山一号墳の発掘調査写真一四点、その他の写真三点が含まれている。そのうち、城山一号墳の発掘調査写真一四点は、全て、これまで知られていないものである。前稿にも含まれていない。

(2) ネガ②の撮影内容

一九八四(昭和五九)年に、城山一号墳の発掘調査写真を、小見川町教育委員会において複写した写真三七点である。⁽¹⁾表題写真一点

および遺物写真九点を除き、ネガ②の前半一七点は、「写真帖Ⅰ」(城山一号墳発掘調査記録写真Aグループ)から、同じく後半一〇点は、「写真帖Ⅱ」(城山一号墳発掘調査記録写真Bグループ)から複写したものと思われる。

「写真帖Ⅰ」から複写した写真については、「写真帖Ⅰ」に貼付している順番と、複写の順番がほぼ合致している。ただし、その中に、現時点で「写真帖Ⅰ」に含まれていない写真が一点含まれているが、これは元々、「写真帖Ⅰ」に含まれていたものと見做すべきであろう。

一方、「写真帖Ⅱ」から複写したと思われる写真においても、現時点で「写真帖Ⅱ」に含まれていない写真二点が含まれる。

(3) ネガ③の撮影内容

三二点の写真が撮影されている。すべて、「写真帖Ⅰ」からの複写写真である。

(4) ネガ④の撮影内容

一八点の写真が撮影されている。一六点は「写真帖Ⅱ」からの複写写真で、二点は現時点で知られていない写真である。この二点の写真については、本来、「写真帖Ⅱ」に所収されていた写真から複写した可能性が高い。

(5) ネガ⑤の撮影内容

城山一号墳の発掘現場の写真や出土埴輪の写真、城山五号墳、城山七号墳、神里古墳(旧香取郡小見川町所在)などの写真二八点を含

むが、全て既知の写真である。このうち、城山一号墳の写真については、すべて、「写真帖Ⅰ」からの複写写真である。

(二) 新たに確認された「発掘調査記録写真」の番号について

前項で検討した内容をまとめておく。

ネガ②④については、すべて、「写真帖Ⅰ」(城山一号墳発掘調査記録写真Aグループ)あるいは「写真帖Ⅱ」(城山一号墳発掘調査記録写真Bグループ)からの複写写真である。一部の写真は、現時点で残されている「写真帖Ⅰ」および「写真帖Ⅱ」に含まれていない写真を含むが、これについては、撮影順序などを検討した結果、本来、両「写真帖」に含まれていた写真と見做すことができる。

一方、ネガ①については、写真を複写したのではなく、現地で実際に撮影した写真であり、「写真帖Ⅰ」や「写真帖Ⅱ」のネガでもないことから、今までに知られていなかった「発掘調査記録写真」と見做すことが可能である。

以上を踏まえて、新たに確認された城山一号墳「発掘調査記録写真」について、以下のような写真番号を付すことにする。

・ネガ①に含まれる新規確認写真一四点については、「J11D1」～「J11D14」とする。

・ネガ②に含まれている写真のうち、「写真帖Ⅰ」から複写したと判断できる新規確認写真一点を「J11A14」とする。同様に、「写真帖Ⅱ」から複写したと判断できる新規確認写真二点を「J11B

118」「J11B119」とする。

・ネガ④にふくまれる写真のうち、「写真帖Ⅱ」から複写したと判断できる新規確認写真二点を「J11B120」「J11B121」とする。

(三) 新たに確認された「発掘調査記録写真」の撮影内容

本項では、新たに確認された城山一号墳「発掘調査記録写真」一九点の撮影内容について記述しておく。なお、写真の通し番号については、前稿に掲載した写真17～写真20に後続する形で番号を振っていくものとする。

写真21 J11D1

写真22 J11D2

前方部西側(左側)における形象埴輪列の検出状況。埴輪列の右側が前方部墳丘である。南から北に向かって撮影されている。埴輪列の手前側がくびれ部、奥側が前方部隅角の方向である。手前側に「下総型」人物埴輪、奥側に「非下総型」人物埴輪が検出されている。女子高校生数人が発掘調査に参加している。左奥および中央奥には木箱、中央左には箕、左手前には竹籠が置かれている。

写真23 J11D3

前方部西側(左側)の形象埴輪列における「下総型」人物埴輪の検出状況。写真16の「下総型」人物埴輪と同一の埴輪。形象埴輪列

の中でもやや中央やや南寄りに位置している。なお本埴輪は、報告書の第五二図および図版三三に掲載されている人物埴輪、また大木一九九五論文における「人物埴輪No.6」と同一である。西南西から東北東に向かって撮影されている。

写真274 J11D4

横穴式石室の羨道部における「閉塞積石」の検出状況。略測用の杭や水糸、巻尺なども見える。左側には一輪車の上に「注意書き」を記したものが看取できる。南から北に向かって撮影されている。

写真275 J11D5

横穴式石室前方の「排水溝」の検出状況。大半が板石を敷いているのに対して、手前側の二石は円礫を用いている。奥には、略測用の杭や水糸、巻尺なども見える。「排水溝」の板石の上には折尺が置かれている。南から北に向かって撮影されている。

写真276 J11D6

横穴式石室の「閉塞積石」の調査状況。「閉塞板石」除去後の精査作業であるうか。高校生のほか、複数の作業員の姿が見える。南西から北北東に向かって撮影されている。

写真277 J11D7

後円部南西側で検出された「粘土敷」の写真。「粘土敷」上面では多数の須恵器・土師器が出土している。本写真では、遺物の下に何かを敷いているので、遺物取り上げ過程の写真であろうか。写真上部に横穴式石室が位置している。概ね西から東に向かって撮影されている。

写真278 J11D8

後円部中腹の調査状況。右奥には横穴式石室が見える。「閉塞板石」を除去し、「閉塞積石」を除去する前の状況である。中央には作業員が立っており、左側は、墳丘の掘り下げが行われているように見える。南西から北東に向かって撮影されている。

写真279 J11D9

後円部墳頂における円筒埴輪列検出状況。左手前から右奥に向かって、円筒埴輪列が検出されている。中央に写っている、最下段の長い特徴的な埴輪は、写真30・31・33・34にも写っている。本写真は、「後円部墳頂円筒埴輪列」の北端部を、北東から南西に向かって撮影している。写真上方には、城山一号墳の東側が広範囲に削平されている状況が看取できる。左奥には自動車二台が停められ、左奥には自転車置かれている。

写真280 J11D10

後田部南西側で検出された「粘土敷」の写真。「粘土敷」上面で出土した須恵器や土師器はすべて取り上げられている。左奥には、横穴式石室前方に「閉塞積石」が置かれている状況が看取できる。概ね北から南に向かって撮影されている。

写真281 J11D11

横穴式石室の調査を見学する人々。写真188・189と同様な光景である。石室の入口近くには高校生のほか、多くの近隣住民が集まっている。写真188と同様に、写真の奥側ではブルドーザーが削平作業を続けている。北西から南東に向かって撮影されている。

写真282 J11D12

写真283 J11D13

前方部西側（左側）における形象埴輪列の検出状況。埴輪列の右側が前方部墳丘である。南から北に向かって撮影されている。埴輪列の手前側がくびれ部、奥側が前方部隅角の方向である。手前側に「下総型」人物埴輪が看取できる。手前に見えるトレンチの「終端」部は、6トレンチとの間に掘り残した「土手」と思われる。前方部西側（左側）における形象埴輪列をほぼ一望する貴重な写真である。

写真284 J11D14

石室内から出土した三角縁三神五獣鏡。鏡の上に敷いた白い布の上に同鏡を載せようとしている。同鏡の取り上げ直後と思われる。撮影場所・撮影方向等不明。

写真285 J11A145

前方部西側（左側）における形象埴輪列の検出状況。埴輪列の右側が前方部墳丘である。南から北に向かって撮影されている。埴輪列の手前側がくびれ部、奥側が前方部隅角の方向である。奥側に「非下総型」人物埴輪、手前側に「下総型」人物埴輪が配置されている。複写写真のため、ややピントがずれている。

写真286 J11B118

横穴式石室の玄門付近から玄室右側壁を撮影する。玄室右側壁の石積みが見える。天井石の一部も写っている。南南東から北北西に向かって撮影されている。

写真287 J11B119

くびれ部から前方部にかけての調査状況が撮影されている。このような広い画角で前方部を撮影した写真は他に無く、非常に貴重な写真である。左側には、前方部西側（左側）における形象埴輪の検出状況が写る。くびれ部から鞍部にかけて設定したトレンチの掘り下げ作業が行われている。高校男子高校生が複数作業しているが、まだ

表土剥ぎの段階と思われる。城山一号墳のトレンチ配置図(図一)には本トレンチは記載されておらず、調査の最終段階において、「墳丘の括れ部から後円部にかけての切断作業」を目的として設置されたトレンチと思われる(丸子ほか一九七八、三〇頁)。前方部墳頂でも何人かの高校生が作業を行っている。南南西から北北東に向かつて撮影されている。

写真288 J1-B120

横穴式石室玄室床面の遺物出土状況。籠手の篠札や挂甲小札など看取できる。左端には鏡板などが見える。左側には実測用の水系と巻尺が張られている。撮影方向等不明。

写真289 J1-B121

やや不明瞭であるが、後円部南西側で検出された「粘土敷」の写真と思われる。「粘土敷」上面で出土した須恵器や土師器はすべて取り上げられている。概ね南南西から北北東に向かつて撮影されている。

四 小結

ここまで、城山一号墳の「発掘調査記録写真」について、基礎情報を整理してきたが、ようやく全容を把握できたと考えている。発

掘調査が行われた一九六三(昭和三八)年から、既に五五年が経過し、発掘調査の関係者の大半は鬼籍に入っている状況である。

しかしながら、前稿および本稿を通じて、城山一号墳の「発掘調査記録写真」を丹念に点検し直すことにより、本来の目的である形象埴輪や円筒埴輪の配置について、非常に多くの新情報を得ることができたと考えている。

次稿では、城山一号墳の「発掘調査記録写真」の検討作業を踏まえて、円筒埴輪および形象埴輪の配置状況を復元・提示し、その考古学的意義について考察する予定である。(未完)

【謝辞】

城山一号墳の発掘調査写真の大半は千葉県香取市協会の所蔵・保管で、一部は同市内の貝塚史蹟保存会の所蔵・保管である。前稿執筆の後、あらたに確認された城山一号墳の発掘調査記録写真の調査および複写は二〇一六(平成二八)年七月八日(金)～一〇日(日)に、出土埴輪の資料調査と並行して実施した。写真資料の調査に際しては、香取市教育委員会の平野功氏および荒井世志紀氏のご高配を得た。

城山一号墳出土埴輪のうち、香取市文化財保存館に展示中の形象埴輪・円筒埴輪の実測作業は全て終了し、現在、その他の破片等の実測作業を行っている。平野氏および荒井氏による、長年にわたる御高配および御助力に対して心より謝意を表する次第である。

註

- (1) 本稿では、大木二〇一六文献を「前稿」と呼称する。
- (2) 報告書では、外側および内側の閉塞材について、それぞれ、「閉塞石」および「河原石」の「誦石」などと記述するが、本稿では、

それぞれ「閉塞板石」、「閉塞積石」と呼称する。

- (3) 後円部墳頂部の縁辺を円形に囲む埴輪列を「後円部墳頂円筒埴輪列」と呼称し、くびれ部から後円部に伸びる、いわゆる「隆起斜道」に配置された円筒埴輪列のうち、後円部側から見て右側に配置された埴輪列を「隆起斜道右側円筒埴輪列」、左側に配置された埴輪列を「隆起斜道左側円筒埴輪列」と呼称する。

- (4) 前稿の表一では、写真51 (J11A52)、写真28 (J11B86)、写真29 (J11B87)、写真29 (J11B88)、写真22 (J11B89)、写真25 (J11B109) を「城山二号墳」と記しているが、「城山三号墳」の誤記なので訂正する。

- (5) 前稿の写真93 (J11A94) は、写真の上下が逆になっているので訂正する。

- (6) 他の埴輪については、香取市文化財保存館に保管されている(近藤二〇一四)。城山四号墳における埴輪出土の経緯については情報が乏しいが、轟俊二郎の『埴輪研究 第一冊』には、「本古墳は発掘されていない。小見川町文化財保存館に陳列されている埴輪片は、浄水場の建設で墳麓の一部が掘り返された時に出土したものであるという。」と記されている(轟一九七三、四一頁)。城山丘陵には、現在、城山第一浄水場と城山第二浄水場があるが、城山四号墳の脇にあるのは第一浄水場である。城山第一浄水場の建設時期は未確認であるが、一九五五(昭和三〇)年四月に町営水道が敷設され、一九五七(昭和三二)年七月一日に上水道の通水が開始されているので、その頃、開設されたものと思われる。城山四号墳の形象埴輪・円筒埴輪が出土したのもその頃であろう。現在、第一浄水場は浄水場としての機能は停止し、第二浄水場に併う排水池としてのみ機能している。

なお、轟俊二郎は、一九七〇(昭和四五)年八月二六日・二七日に、茂木雅博とともに城山一号墳出土埴輪の資料調査を行っているが(茂木雅博先生還暦記念事業会編二〇〇二)、小見川町文化財保存館は、一九七〇(昭和四五)年三月二三日に竣工(小見川

町史編さん委員会編一九九二)、同年五月一日に開館しており(丸子ほか一九七八)、轟および茂木は完成・開館直後の保存館を訪れたと思われる。

- (7) 本埴輪については、報告書の本文中では触れられておらず、写真図版に上半身の写真が掲載されているのみである(丸子ほか一九七八、図版三九―四)。轟俊二郎は、『埴輪研究 第一冊』において、本埴輪の写真を掲載するとともに(轟一九七三、Fig. 二〇―五)、若干の言及を行っている。轟は、「東京都小金井市の武蔵野郷土館には城山一号墳出土の女子埴輪が1個体陳列されている。これは後述の成田山史料館藏品とともに、佐倉市在住の北詰栄男氏によりかつて発見されたものである。」と述べているが(同前、七八頁、注一五)、上記の「成田山史料館藏品」が本写真の人物埴輪に該当する。本埴輪は、小林行雄が編集した『陶磁大系3 埴輪』にも掲載されている(小林行雄一九七四)。もう一体の武蔵野郷土館展示埴輪については、ほとんど紹介されることがなかったが、水戸市立博物館の図録に掲載されている(水戸市立博物館一九八三、三七頁)。

- 二〇一二(平成二四)年三月二三日(木)、印西市立印楮歴史民俗資料館の能勢幸枝氏(現・印西市木下交流の杜歴史資料センター)とともに、千葉県印西市内に所在する「メタルアート・ミュージアム 光の谷」において、北詰栄男氏(同ミュージアム館長(当時))に直接お話を伺う機会があった。戦中から終戦直後にかけて、城山古墳群付近では松根油の採取を目的とした松の抜根がなされていたが、そのような過程で出土した人物埴輪であることをご教示された。北詰栄男氏所蔵の人物埴輪二体は、その後、香取市教育委員会に寄贈されている。なお、「メタルアート・ミュージアム 光の谷」は北詰氏収集のコレクションの所蔵・公開を目的とする私設美術館であったが、二〇一四(平成二六)年末をもって閉館し、コレクションは千葉県立美術館に寄贈されている。

- (8) 「下絵型」人物埴輪は轟俊二郎によって設定された埴輪型式である

(8) 〔藤一九七三〕。本稿における「下総型」人物埴輪は、藤による設定基準に準拠しつつ、再指定を試みている(犬木一九九七など)。本稿では、「下総型」人物埴輪以外の人物埴輪を便宜的に「非下総型」人物埴輪と呼称しておく(犬木二〇一五)。

(9) 報告書では「墓道の石敷」として記載されているが、本稿では他の調査事例も鑑み、「排水溝」として記述する。

(10) 「貝塚史蹟保存会」とは、香取市内(旧香取郡小見川町内)の良文貝塚の保存を目的として一九三〇(昭和五)年に発足した組織である。現在もなお良文貝塚の維持・管理に努めている。良文貝塚および貝塚史蹟保存会については、香取市から刊行されている報告書および同書に所収されている平野功氏の考察を参照されたい(香取市教育委員会二〇一六、平野二〇一六)。「貝塚史蹟保存会」については平野功氏のご教示を得た。

(11) 本稿の写真三七点については、香取市教育委員会の平野功氏にお聞きしたところ、氏ご自身が複写したところのご教示を得た。

関連文献

犬木 努 一九九六「埴輪製作における個体内・工程別分業と種類別分業―千葉県小見川町城山一号墳出土埴輪の再検討―」『埴輪研究会誌』第二号、埴輪研究会、一―三〇頁

犬木 努 一九九七「茨城県猿島郡境町百戸出土人物埴輪の再検討―下総型人物埴輪の形態変化とその特質―」『MUSEUM』No.五四九、東京国立博物館、四七―七一頁

犬木 努 二〇〇五「下総型埴輪再論―埴輪同工品論の先にあるもの―」『埴輪研究会誌』第九号、埴輪研究会、一―二二頁

犬木 努 二〇〇九「埴輪と工人―「印波」からの埴輪生産組織論―」『房総と古代王権―東国と文字の世界―』高志書院、四三―七〇頁

犬木 努 二〇一〇「城山一号墳の埴輪列小考―後円部墳頂の埴輪列をめぐって―」『埴輪研究会誌』第一五号、埴輪研究会、七九―九二頁

犬木 努 二〇一三「下総型埴輪の風景―形態変化・工人編制・分布域

―」『埴輪研究会誌』第一七号、埴輪研究会、一―三七頁

犬木 努 二〇一五「城山一号墳出土埴輪の再検討―系譜・組成・配置・生産組織―」『日本考古学協会第八一回総会 研究発表要旨』日本考古学協会、一三二―一三三頁

犬木 努 二〇一六「城山一号墳の発掘調査記録写真(一)―千葉県香取市城山古墳群の基礎資料(1)―」『大阪大谷大学紀要』第五〇号、大阪大谷大学、一―四六頁

犬木 努 二〇一七「城山五号墳の発掘調査記録写真(二)―千葉県香取市城山古墳群の基礎資料(2)―」『大阪大谷大学紀要』第五一号、大阪大谷大学、一―三二頁

鬼澤昭夫編 一九九三「城山四号墳」香取都市文化財センター調査報告書第一九集、香取都市文化財センター

小見川町史編さん委員会 一九九一「小見川町史 通史編」小見川町香取市教育委員会 二〇一六「国指定史跡 良文貝塚」

小林行雄 一九七四「陶磁大系3 埴輪」平凡社

近藤麻美 二〇一四「千葉県香取市城山四号墳出土埴輪について」『埴輪研究会誌』第一八号、埴輪研究会、一六三―一七九頁

千葉県立小見川高等学校 一九七五「創立五十年記念誌」

轟俊二郎 一九七三「埴輪研究 第一冊」私家版

平野 功 一九九三「大王の世紀を歩く―小見川町の古墳探訪―」『香取民衆史』六、香取歴史教育者協議会、五―三三頁

平野 功 二〇〇三「城山古墳群」『千葉県の歴史 資料編 考古二(弥生・古墳時代)』千葉県、一〇二―一〇二七頁

平野 功 二〇一六「付編1 貝塚史蹟保存会の設立と活動」『国指定史跡 良文貝塚』香取市教育委員会、四二―六二頁

平野 功編 一九九七「城山三号墳」香取都市文化財センター調査報告書第五二集、香取都市文化財センター

九子 亘 一九六五a「千葉県小見川町城山一号前方後円墳の調査」『日本考古学協会第三二回総会 研究発表要旨』日本考古学協会、一―一頁

丸子 亘 一九六五b「千葉県小見川町城山古墳の調査」『立正大学文学部論叢』二二、立正大学文学部、二二～四八頁「本論文の別刷として丸子一九六五cを刊行」

丸子 亘 一九六五c「千葉県小見川町城山第一号前方後円墳の調査」立正大学博物館学講座研究報告二、立正大学博物館学講座

丸子 亘 一九六九「千葉県香取郡城山第一号古墳」『日本考古学年報』一六、日本考古学協会、一三八～一三九頁

丸子 亘ほか 一九七八「城山第一号前方後円墳」小見川町教育委員会水戸市立博物館 一九八三「特別展 関東の埴輪―人物を中心に―」

茂木雅博先生選暦記念事業会編 二〇〇二『茂木雅博先生略年譜并著作論文目録』

挿図出典

図1：平野二〇〇三より一部改変。

図2：犬木二〇一より。

写真271、289：香取市教育委員会所蔵写真より犬木が複写。

写真図版（新規確認分） 凡例

・写真図版番号および写真番号は、本文中にも記したように、前稿（犬木二〇一六）からの通し番号とする。

・「縦位置」で撮影された写真は、右側が上になるように配置する。

・白黒ネガ自体からのスキヤンではなく、プリントした写真からスキヤンしているため、写真の端部が一部スキヤンできていない場合がある。

前稿（犬木二〇一六）表一の正誤訂正

- ・写真51（誤）城山二号墳↓（正）城山三号墳
- ・写真288、291（誤）城山二号墳↓（正）城山三号墳
- ・写真291（誤）城山二号墳↓（正）城山三号墳
- ・写真291（誤）古塚吳供養塔↓（正）古塚吳供養塔
- ・写真298（誤）小見川中学校↓（正）小見川高校

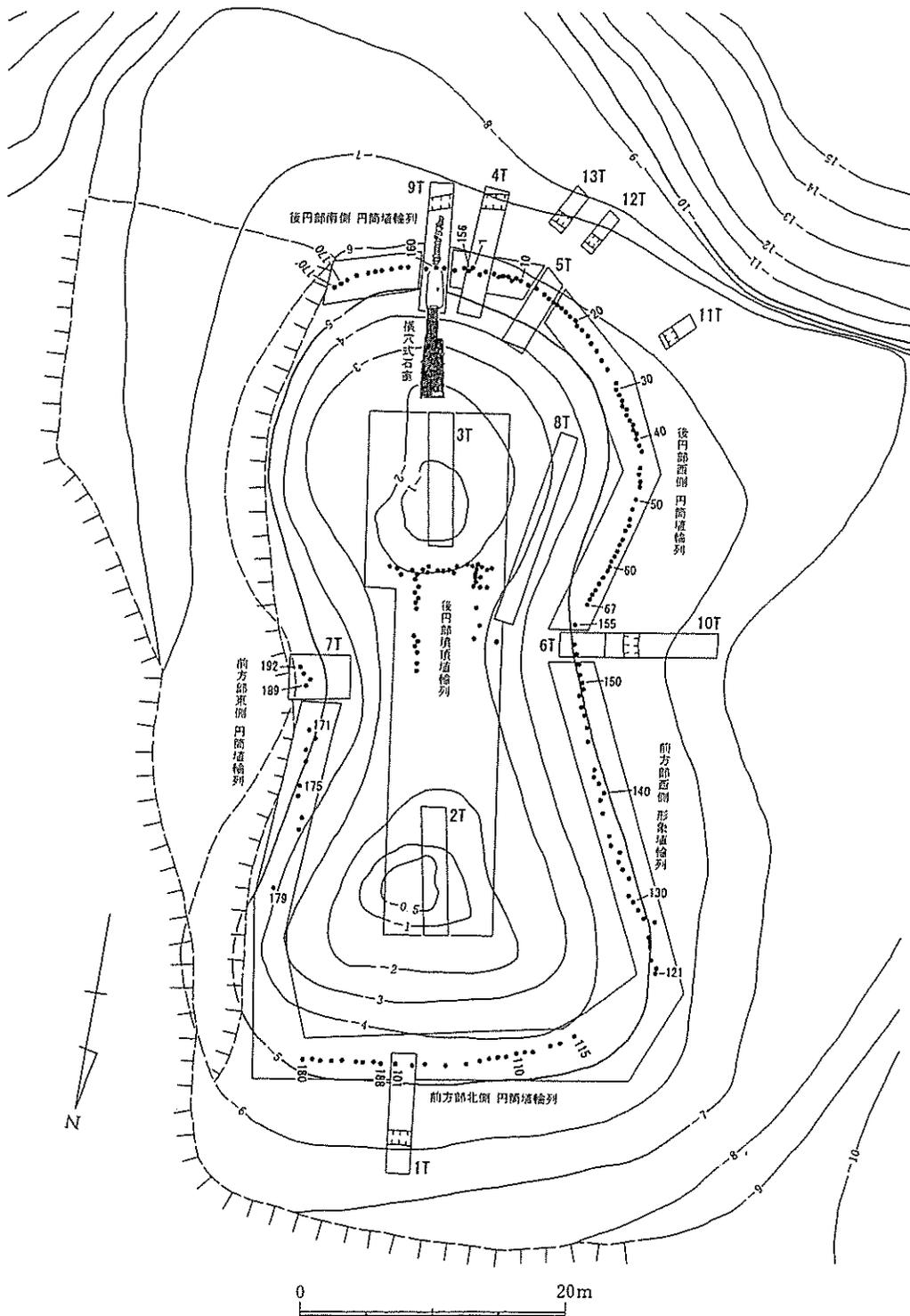


図2 城山1号墳全体図

